

第3回福山駅前広場協議会 議事録

日時：2022年（令和4年）8月5日（金）13時～15時

場所：福山市役所6階60会議室

内容

●事務局

本日はお忙しいところお集まりいただきありがとうございます。これより第3回福山駅前広場協議会を開催いたします。私は本日司会をさせていただきます福山駅周辺再生推進課の山田と申します。よろしくお願いいたします。では、開会にあたりまして、建設局長の市川よりご挨拶を申し上げます。

《開会挨拶》

●建設局長

本日は、お忙しい中、第3回福山駅前広場協議会にご出席いただきまして、誠にありがとうございます。新型コロナウイルスの影響が長期化しておりますが、福山駅前の再生の歩みを止めず、本市や備後圏域の玄関口である駅周辺を、官民が連携して、人や企業を惹きつける魅力あるエリアに変えていかなければなりません。先月13日には、福山駅北側の北口スクエアが完成しました。駅から出てすぐに「ばらのまち」を印象付ける空間に整備し、市民の憩いやイベントなどでも利用しやすい、魅力的な空間になったと考えております。今月28日には、福山城築城400年を迎えます。本市発展の礎を築き、市民の誇りとして親しまれている福山城の歴史的価値や魅力を多くの人に感じていただきたいと考えております。駅前広場の西側の三之丸町周辺エリアでは、旧キャスパ等跡地で建築工事が進んでいます。さらにエフピコ RiM は今年秋に1階がリニューアルオープンする予定です。また、東側の伏見町では、商店会がメイン通りの愛称を「伏見ゴッサム通り」と名付けて、まちの魅力を発信するなど、駅を中心としたエリアで、様々な取組が進められております。こうした取組と連動しながら、駅前広場の検討を進め、駅周辺のエリアを変えていきます。この度の協議会では、昨年度公表した素案に対するご意見を踏まえながら、今後の検討の方向性についてご意見を頂戴したいと思います。みなさまのご意見を参考にしながら、備後圏域の玄関口にふさわしい多くの方々に愛される福山駅前広場の実現に向けて取り組んでまいります。本日も活発なご議論をお願いし、開会の挨拶とさせていただきます。どうぞよろしくお願いいたします。

●事務局

ありがとうございます。続きまして、清水座長からご挨拶をいただきたいと思っております。清水座長、よろしくお願いいたします。

《座長挨拶》

●清水座長

東京ではコロナが蔓延しており、周り中がコロナにかかっている状態ですが、こうして、みんなが集まって、しっかりと議論ができる大変大事な機会だと思います。本日もまた活発な議論をお願いしたいと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

●事務局

ありがとうございます。続きまして、本協議会の委員のご紹介です。本来なら、お一人ずつご紹介させていただくところですが、限られた時間ですので、お配りしております名簿をもって代えさせていただきます。次に、本日の進行及び配布資料について、ご説明いたします。本日の議題は、「素案に対する意見の整理と今後の検討について」です。昨年度作成した素案に対する意見を整理しましたので、それを踏まえ、今後の検討についてご意見をいただきたいと思います。後ほど、事務局から説明し、その後、委員のみなさまによる意見交換を行っていただきます。次に配布資料についてです。資料1は本日の出席者名簿、資料2は素案に対する意見の概要、資料3は課題の整理状況と検討の方向性、資料4は福山駅前広場整備の基本方針の骨子案、参考1はシンポジウムやホームページなどで頂いた意見、参考2は前回の協議会の議事録の抜粋、参考3はシンポジウムの意見の概要、参考4は現在行っているアンケート調査結果の速報です。それではこれより、意見交換に移りたいと思います。ここからの進行は清水座長にお任せしたいと思います。清水座長、よろしくお願いいたします。

《意見交換》

●清水座長

意見交換に入りたいと思います。まずは最初に事務局から説明をお願いします。

●福山駅周辺再生推進課長

本日、会場の中央に、駅前広場の模型を置いております。こちらは、素案に示した各機能の配置や地下の接続方法を、より具体的にイメージをやすくするために、これまでの意見をまとめながら、委員の西村浩さんが作成されたものです。後ほど、皆さんに模型をご覧いただきながら、西村さんから模型のご説明をいただきたいと思います。まずは、昨年度1月に公表した福山駅前広場の各機能の配置計画案(素案)に対するこれまでの意見を整理しましたので、そちらからご説明します。それでは資料2、1頁をご覧ください。まず、素案について、改めてご説明させていただきます。素案は、協議会やアンケートなど、幅広く意見を聴取しながら、叩き台として作成したものです。素案は「最終案」ではなく、更に広く意見を聴き取るために作成したものであり、修正を加えながら、今年度、基本方針を策定することとしています。また、各交通機能や広場機能の配置、広場の使い方、駅前広場と周辺街

区のつながりをイメージしていただくために素案のイラストも作成しました。2頁をご覧ください。素案の周知と意見聴取の方法についてです。福山駅前デザイン会議や福山駅前広場協議会、福山駅前広場デザインシンポジウム、ホームページ・SNS等、様々な方法で素案の周知及び意見聴取を行いました。3頁をご覧ください。ここからは主な意見についてご説明します。これまでに頂いた主な意見をいくつかのテーマに分けて整理しています。資料の上段に、主な意見を、資料の下段には、主な意見のまとめと市の考え方を示しております。今回、全てのご意見をご紹介します時間がございませんので、主な意見のまとめと市の考え方をご説明します。まず、機能の配置に関する意見についてです。意見をまとめると、1次交通から2次交通への接続距離をできるだけ短くして欲しいなどの交通結節機能を重視する意見と駅前広場を全面的に広場にして欲しいなどの都市の広場機能を重視する意見がそれぞれありました。市の考え方としては、過年度のアンケート調査結果では交通結節機能と都市の広場機能の両方が求められていることが分かっていることから、両方の機能をバランス良く配置することが必要と考えています。意見を参考にしつつ、交通空間は駅舎との結節を確保しながら広場の内外に配置するとともに、環境空間は歩行者の東西方向の移動のしやすさを確保しながら広場の東西に分散配置することを基本に考えています。4頁をご覧ください。遺構の保存・活用に関する意見についてです。主な意見としては、石垣や二重櫓の再現を求める意見があることや、遺構を福山の礎を築いたシンボルとして扱うという意見、駅前広場を城郭の一部として扱うという意見がありました。市の考え方としては、福山城の遺構や関連する歴史資源を大切にすることは必須になることを基本方針に明記するよう考えています。遺構の保存・活用の検討に向けて、遺構の取扱いの方針を検討していきたいと考えています。5頁をご覧ください。広場の利活用に関する意見についてです。主な意見としては、広場と隣接する施設の連携が大事になるという意見や様々な利用を求めるとともに、実際の使い方を考慮した計画づくりを求める意見、広場の管理・運営方法について、官民連携による運営のあり方を求める意見がありました。市の考え方としては、広場に隣接する施設とどのように連携するのかを検討することや広場の利用者が駅前広場でどのような活動をしたいのかを把握すること、官民連携での広場運営を検討していくため、様々な民間事業者に運営に関する考え方を聴いていくことが必要だと考えています。今後、広場のニーズや民間事業者の意見を踏まえながら、駅前広場の管理・運営方法を検討していきたいと考えています。6頁をご覧ください。立体利用に関する意見についてです。主な意見として、福山城が見えるように陸橋の設置を求める意見や雨よけ、日よけのために屋根の設置を求める意見、環境空間の確保や交通処理のために、地下利用を求める意見があります。市の考え方としては、ペデストリアンデッキなどの整備による上空利用については、駅舎がダブルデッキのため、駅利用者の昇り降りが生じることなどから望ましくないと考えています。福山城が見える場所や屋根については、基本計画で施設の検討をする際に、広場の使い方や運営方法を踏まえながら検討したいと考えています。地下利用については、環境空間が増えることや交通処理がスムーズになることなどの理由から、今後、地下駐車場と地下送迎場の接

続及び地下送迎場からダイワロイネットホテル北側への出口の新設の検討を行いたいと考えています。7頁をご覧ください。駅周辺の交通のあり方に関する意見の内、駅周辺の交通処理に関する意見についてです。意見をまとめると、都市圏を含めた交通計画の検討を求める意見やまちづくりの観点から歩行者と車両の動線分離を求める意見、安全性の観点からバス乗降場の区間において、自家用車を通行制限し、公共交通のみ通行可能とする意見、駅前広場の再整備による影響が考えられるため、伏見町周辺の交通処理の検討を求める意見、旧キャスパ前の一般車が通過する道路を廃止するため、三之丸町の道路再編の検討を求める意見がありました。市の考え方としては、交通施策の考え方との整合や調整を行いながら、駅前広場や駅周辺道路の整備を検討することや、駅前広場内の歩行者動線と車両動線の基本的な考え方については、基本方針に明記することを考えており、具体的動線計画については、基本計画を検討する際にレイアウトや施設配置とともに検討すること、トランジットモール化については、伏見町周辺の交通処理への影響が考えられるため、安全性と利便性のバランスを考慮しながら検討すること、旧キャスパ前の道路は将来的に廃止することが望ましいが、当該道路の代替機能を検討することが必要と考えています。8頁をご覧ください。次に自転車に関する意見についてです。意見をまとめると、歩行者動線と自転車動線の分離を求める意見や自転車に特化したまちづくりを求める意見がありました。市の考え方としては、駅前広場内の歩行者と自転車の分離については、安全確保の観点から、自転車施策の考え方との整合や調整を図りながら、ハードとソフト両面で検討します。自転車に特化したまちづくりについては、ルート案内看板の設置や路面標示、自転車の組立場の設置など、自転車を利用しやすい環境の整備を進めています。また、観光コンテンツとして発信を行い、市外からのサイクリストの誘客を促進しています。9頁をご覧ください。次に公共交通に関する意見についてです。意見をまとめると、公共インフラを維持していくための仕組みづくりが大事になるという意見や公共交通の利用促進のため、料金の無料化などの実証実験を求める意見がありました。市の考え方としては、ウォークアブルなまちづくりの観点だけでなく、高齢化による免許返納者の増加など、様々な観点から、公共インフラとしての公共交通の利用促進やサービスの維持は課題だと考えています。公共交通の利用を促進し、持続的にサービスを維持するため、民間事業者と連携した仕組みづくりを検討します。10頁をご覧ください。次に駐車場に関する意見についてです。意見をまとめると、駐車場が不足しているという意見や伏見町に大きな駐車場を設置してはどうかという意見がありました。市の考え方としては、当面の土地利用を目的とした小規模駐車場が増加してきており、中心部では供給過多となっているものの、駐車場が不足しているという意見があることから、目的地周辺の駐車場が不足していることが推測されます。車でも来やすく歩いて楽しい空間を創出していくためには、利用しやすい場所に駐車場を誘導・集約化していくことが必要となると考えています。現在、駐車場の誘導・集約化に向けて、駐車場配置適正化区域の指定に向けて検討を進めています。11頁にはその他の意見を掲載しております。駅前広場の検討にあたり、非常に多くのご意見をいただき、誠にありがとうございました。いただいた意見は

今後の検討の参考とさせていただきたいと考えております。参考資料としてこれまで頂いた意見をお配りしておりますので、詳細はそちらでご確認ください。素案に対する意見の説明は以上です。

続いて、福山駅前広場の課題の整理状況と検討の方向性についてご説明します。資料3、1頁をご覧ください。先ほどご説明したとおり、機能の配置に関しては、交通結節機能と都市の広場機能をバランス良く配置することが必要と考えています。そのため、素案に示す通り、交通空間は駅舎との結節を確保しながら広場の内外に配置するとともに、環境空間は歩行者の東西方向の移動のしやすさを確保しながら広場の東西に分散配置することを基本的に考えています。ここからは、素案に示す機能の配置をめざす場合の課題と検討の方向性について、ご説明します。主な課題として、九つの課題があると考えています。順にご説明します。2頁をご覧ください。1つ目は、「北口広場との役割分担」です。上段に課題、下段に検討の方向性を示しています。課題は交通結節機能の維持・向上及び都市の広場機能の適正配置のため、北口広場との役割分担をしながら、駅前広場の機能の配置を検討する必要があります。検討の方向性として、福山駅北口広場整備基本方針に示している機能を前提としながら、駅前広場の機能の配置を検討することを考えています。3頁をご覧ください。2つ目は、「交通施設の配置計画の検証」です。課題は、交通結節機能の維持・向上のため、素案で示した交通施設の配置計画を検証する必要があります。検討の方向性として、専門家や学識経験者、交通事業者を交えて、転回場や待機場の場所などを検討することや、待機場を広場外に配置し、待機場から駅前の乗降場へと路線バスやタクシーを配車する実証実験を行うことを考えています。実証実験については、前回の協議会でもご意見がありましたように、協議会が主体となって実施していきたいと考えています。4頁をご覧ください。3つ目は、「駅舎との結節を増やす」です。課題は、交通結節機能の維持・向上のため、駅舎との結節箇所を増やす必要があることです。検討の方向性として、JR 福山駅の西側改札及び出入口の設置にあたっての課題を整理することを考えています。5頁をご覧ください。4つ目は、「一般車動線による広場空間の分断の解消」です。課題は、広場空間の確保や歩行者の利便性・安全性の向上のため、一般車動線による広場空間の分断の解消を検討する必要があります。検討の方向性として、一般車が通過する道路（東側）や一般車が通過する道路（西側）、地下送迎場への斜路の廃止にあたっては、当該道路の代替機能を確保することが必要となると考えています。一般車が通過する道路（東側）の代替機能は、①伏見町周辺の道路で確保することを検討します。一般車が通過する道路（西側）の代替機能は、②三之丸町周辺の道路再編もしくは③地下送迎場からの出口新設で確保することを技術的な実現性とコストの観点から検討します。地下送迎場への斜路の代替機能は、④地下接続で確保することを技術的な実現性とコストの観点から検討します。6頁をご覧ください。5つ目は、「駅前広場に接する交差点のコンパクト化」です。課題は、広場空間の確保や歩行者の利便性の向上、交差点内の複雑な交差を解消するため、駅前広場に接する交差点（福山駅前交差点）をコンパクトにする必要があることです。検討の方向性として、駅前広場に接す

る交差点をコンパクトにして、駅前大通り（市道福山駅箕沖幹線）の車線数を縮小した場合の交通処理について、交通シミュレーションによる検証を行うことを考えています。7頁をご覧ください。6つ目は、「歩行者と自転車が安心して通行できる環境づくり」です。課題は、安全性の向上のため、歩行者と自転車が安心して通行できる環境をつくる必要があることです。検討の方向性として、駅前広場内において、歩行者と自転車の交錯の危険性があるため、自転車施策の考え方と整合を図りながら、ハード・ソフト両面で対策を検討することを考えています。8頁をご覧ください。7つ目は、「広場内を通行する車両の抑制」です。課題は、安全性の向上のため、広場内を通行する車両の抑制を検討する必要があることです。検討の歩行性として、一般車の通行により、歩行者や公共交通との交錯の危険性があるため、伏見町へのアクセスを考慮しながら、一般車の通行制限を検討することを考えています。9頁をご覧ください。8つ目は、「遺構の保存・活用の検討」です。課題は、駅前広場を訪れる人々が福山の歴史や文化、愛着を感じられる空間にするため、遺構の保存・活用の検討を行う必要があることです。検討の方向性として、遺構の保存・活用の検討にあたり、まずは文化財の知見を持つ専門家を交えて、遺構の取扱いの方針を検討することを考えています。10頁をご覧ください。9つ目は、「福山駅前広場の使用・運営・管理方法の検討」です。課題は、利便性や快適性を向上させるため、多様な使い方ができるマルチな広場空間にする必要があること、運営や管理のあり方を検討する必要があることです。検討の方向性として、アンケートやヒアリングなどにより、広場利用者のニーズや民間事業者の運営に関する考え方を調査すること、駅前広場の管理者である福山市とJR西日本で駅前広場の管理方法を検討することを考えています。課題の整理状況と検討の方向性については以上です。

続いて、福山駅前広場整備の基本方針の骨子案についてご説明します。それでは資料4、1頁をご覧ください。まず、基本方針の検討内容について、改めてご説明させていただきます。駅前広場計画を進めるうえで重要なことは、計画条件を踏まえ、都市における駅前広場の位置付けを認識し、計画の基本方針を明確にすることです。基本方針の検討内容には大きく2点あります。1点目は広場機能のあり方であり、駅前広場に求められている「交通空間としての機能のあり方」と「環境空間としての機能のあり方」を明確にすることです。交通空間としての機能のあり方については、素案に示す配置が基本になると考えており、環境空間としての機能のあり方については、広場のニーズや運営の考え方から検討を行いたいと考えています。2点目は駅前広場と周辺あり方です。駅前広場と周辺交通計画のあり方や駅周辺に求められる機能を駅の南北あるいは駅前広場区域内と周辺施設のどちらに配置するかといった役割分担、動線計画の考え方、立体利用の条件などを整理します。2頁をご覧ください。基本方針の骨子案についてです。素案の考え方やみなさまからのご意見、今年度の検討を踏まえて、基本方針を策定します。基本方針には、駅前広場整備の目的や現状、課題、ビジョン、コンセプト、計画の基本的な方針、スケジュールなどを明記する予定です。計画の基本的な方針は、これまでに示してきた考え方が基本になると考えています。そして、基本方針に基づいて、次年度から基本計画の検討に着手したいと考えています。3頁をご覧

ください。基本方針策定までのスケジュールについてです。左側が昨年度、右側が今年度のスケジュールです。本日、素案に対する意見の整理や今後の課題などについてご意見を伺い、その後、必要な調査や分科会などの開催、実証実験の実施などを行い、課題の検討を行います。そして、課題の検討結果を踏まえて、来年2月頃に基本方針案をお示ししたいと考えております。そして、基本方針案に対するご意見を様々な方法で聴き取りながら、今年度末に基本方針を策定する予定です。4頁をご覧ください。全体スケジュールについてです。これまで、来年度に基本計画を策定する予定とお伝えしてまいりましたが、駅前広場の機能を現在の駅前広場の区域内だけでなく、駅周辺の空間も含めて再配置する案となったため、駅前大通りの再編や地下利用の可能性調査などに時間を要するとともに、関係者や利用者に議論経過を丁寧に説明し、ご意見を聴き取る時間を要することから、基本計画の策定期間を2年間とさせていただきたいと考えています。福山駅前広場整備の基本方針の骨子案については以上です。

次に現在行っているアンケート調査についてご説明します。参考資料4、1頁をご覧ください。現在、福山駅前広場に関するアンケート調査を実施しております。この度の調査では、前回と同じ広場の活用イメージに関する設問と、新たに「広場への関わり方」に関する設問を加えています。前回のアンケート調査は素案のイラストを公表する前に実施したため、将来の広場空間のイメージが湧きにくかったと思われます。そのため、この度は素案のイラストを示しながら、広場空間のイメージをお伝えしつつ、調査を実施することといたしました。アンケートは、6月上旬から開始しており、7月26日時点で5,403人から回答をいただいています。市の公式ラインでアンケートを募集した後、5,000人程度、回答数が伸びております。属性の特徴としては、30代～50代の回答者が約66%、女性の回答者が約67%、18歳未満の子どもがいると回答された方が約42%です。今のところ、昨年度と比較して、あまり大きな差はみられません。6頁をご覧ください。「駅前広場で何がしたいか」という設問については、上位の順番はあまり変化していません。「イベントや祭りに参加する」や「野外イベントを楽しむ」、「スポーツを見たり体験したりする」が3%以上増加し、「まちを散歩する」や「休憩をする」は3%以上減少しています。7頁をご覧ください。「広場の検討において大事になること」については、「天候によらず使いやすいこと」が3%以上増加し、「市民に愛され、市民が誇りに感じられる駅前にする」が3%以上減少しており、「天候によらず使いやすいこと」が1番多い回答になっています。8頁をご覧ください。この度新たに加えた設問です。今後、広場の管理や運営、利用の方法を考えていくうえで、みなさんがどのように駅前広場に関わっていきたいかを聴き取るものです。利用者側として関わりたい方が87%、企画運営側や活動する側として関わりたい方が約11%です。このことから、広場の企画運営や出店などのニーズがあることが推測されます。以上、アンケートの結果速報でした。これで資料についての説明は終わります。

続いて、模型についてご説明します。この模型は、素案に示す各機能の配置方法や地下接続の方法をイメージしやすくするために、委員の西村さんがご作成して下さったもので

す。あくまでイメージですので、詳細については今後、検証が必要になる部分もございます。模型の説明については、作成いただいた西村浩さんにお任せしたいと思います。それでは、みなさん、模型の近くに寄ってご覧ください。中央スペースが混雑しますので、委員以外の方々につきましては、会議終了後にご覧いただければと思います。オンラインの方々については、会議終了後、ホームページに模型の写真を掲載する予定ですので、そちらでご確認ください。それでは、西村さん、よろしくお願いいたします。

《模型説明》

●西村浩

資料がすごく分かりやすく作ってあったので、必要なかったかもしれないが、これまで平面のイメージ図だったので、イメージができない人がいるかもしれないと思って、模型を勝手に作ってきた。屋根とか芝生とか台数とか細かいことはさて置いて、実際こうなったら、どういう構造になるのかを皆さんと共有できれば、今後、議論する際に想像しやすいと思いついてきた。細かいことは許してほしい。現状では駅前広場内にバスの待機場とバスベイ、タクシーとタクシープールがある。駅前大通りの幅員が広いので、交差点がすごく大きくなり、交通が複雑で事故が起こりやすい状態となっている。また、歩行者の横断距離が長くなり、地上を渡れない状態になっている。現状、歩行者は地下歩道を通るため、東西の分断を感じやすい。さらに、駅前広場には地下送迎場へのアプローチがあるため、東西を行き来することが難しい状態にある。現在の駅前広場は、駅の正面だけで交通の結節を考えている。素案では東側から西側までの範囲を駅と捉えて、交通結節を東西に広げていることが一番のポイントだと思う。今、地下がどうなっているかというと、駅前大通りに地下駐車場があり、地下送迎場との間に地下歩道がある。地下駐車場へのアプローチは駅前大通りの真ん中にある。もう一つ、駅前広場の地下に地下送迎場がある。東西のアプローチから地下送迎場に入る。地下送迎場と地下歩道の間は埋まったままの状態。その間を駐車場として整備をしてはどうか。地下へのアプローチを駅前大通りに限定して、駅前広場にある地下送迎場への東西のアプローチを無くす。現在、地下送迎場へのアプローチがある部分には石垣がないので、その部分を車が通過すれば、石垣を壊さずに通過することが可能。そのまま、西側にも抜けられるようにもする。地下送迎場を利用し、地上の交通量を減らす。そして、地下を通過して西側にも行けるようになると思っている。車が通過する、車を駐車する、車で送迎するという機能を地下にいれると、地上をほとんど広場として使える。もう一つのポイントは、バスが抜けるような提案になっているが、そうすれば交差点形状が非常にコンパクトに収まること。車線を半分に減らせば交差点がコンパクトになるので、歩行者が地上を渡りやすくなるという効果がある。駅前広場から長く連続した大きな広場を確保できることも大きなポイント。石垣があると想定される場所を黄色で着色している。歴史的な遺構をどのように扱うかは、遺構の現状を調査するとか、文化財としてどのように残しておけばいいかという議論が必要だろう。遺構を地上にどのように表現するかは今後の議論だと思う。その他に

は広場空間に芝生を張ったらどうかとか、ちょっと水辺を作ることによって昔は水があったという記憶を残したらどうかとか、リムから旧キャスパを結ぶ道の正面にはいつもイベントをやっている風景を作ってみたらどうかとか、バスのシェルターをイベントのステージにも使えるように兼ねて作ってはどうかとか、色々考えながらこの模型は作っている。バスが広場内を通過して、さんすての前に停車して、さんすての東側の出口から入っていく流れも出来ると思っている。バスが転回する場所をどこに取るかが今後のポイントだと思うが、官地で取るのか、民地で取るのか。もしかしたら、堀端公園で転回できる可能性もあると思う。仮に伏見町で開発があれば、転回場として使えるかもしれない。素案の機能配置でも、バスが通ることによって、まだ東西が分断されているという意見があるのであれば、もともと伏見町に開発という話もあったわけだから、これを契機に伏見町にバスセンターができて、1階がバスの拠点になって、上に駐車場ができて、住宅や商業ができる可能性もあるのではないかと。周辺の道路の拡張も必要かもしれないが、そういう民間の開発の可能性も今後のテーマになると思う。シーズンに多くなる観光バスをどこに待機させるかという話もある。例えば、さんすてから本通りまでの道路を一方通行にして、そこに観光バスを待機させて、そこから雨に濡れないようにシェルターを連続して付けたりすることでさんすてから本通りまでが回遊動線になったり、さんすてを通過して駅前でスムーズにアクセスできたりする。さんすてから東側の道路を使うことは観光業界の方にとってもメリットがあると思う。大きな構造としてはこういうことができると思っている。細かいことはこれからだろうが、駅前広場の交通結節と広場機能を両立させるためには、今の間口だけで考えるのは限界があるので、これくらいの広さで考えて、交通結節と広場を両立して、濡れずに地下を歩いて行けるようにしたり、駐車場不足と言われるイメージが言われているところにフリンジパーキングの一つを整備したりとか、そういったことが実現可能なのではないかと考えた。皆さんがイメージできるように作ったが、これくらいできそうだとすることを共通認識として持って議論できればと思う。

●福山駅周辺再生推進課長

できるできないということは西村さんが繰り返し仰っていたが、そのあたりは今後の調査や検討を含めて、みなさんと議論できればと思います。こうなったらいいなという西村さんの意見を踏まえて、一つの共通認識を持ったうえで、機能の配置など、駅前広場の課題や検討の方向性について、意見をもらえればと思っています。

●清水座長

ありがとうございます。非常にコンパクトに適切な説明があったと思う。ここから意見交換に入ります。理想の駅前ができることを願いながら、意見を出してもらいたい。順番に挙手をお願いします。

●渡邊一成教授

まず初めに多くの意見を市民の方々から出していただけて非常に嬉しく思っています。そして、それを丁寧にまとめていただいて、ありがとうございます。個人的には、作る段階から勝負だと思っていて、工事に入ったら終わりという訳ではないが、やはり作る段階からみんなで考えて、良いものを作っていくんだという機運を高めることがとても大事だと思っている。時間もかかるし、手間もかかるが、これを惜しんではいけないと思っている。そういう意味では非常に丁寧に進めていただいてありがとうございます。2つ目は、市民の意見の中にも、交通結節機能は近くにあるべきだとか、いやいや広場にすべきだとか、いろいろな意見が出るのはもったもだと思う。今回やらないといけないのは絶対にあきらめない事。両方をうまく取れるようなアイデアを粘り強く考えていくことが大事だと思っている。新しいアイデアとして、駅前の間口を広げるとはとても良いアイデアだと思っている。大体、大きな駅だと、東西南北に4つくらいの出口があるが、福山は南と北しかないなのでそこを広げるとはもったもな事だと思う。それからもう一つは地下をうまく使うということ。皆さんご存じかもしれませんが、広島市の基町に、もとまちパーキングアクセスという地下の駐車場をつなぐ地下道がある。あれはいいアイデアだと思う。駐車場を探しながら地上を走る車が減った。そこまでは言わないが、今ある地下空間をどのように有効活用するかはポイントになる。地下を使えば、地上の交通量が減って、地上が使えるようになる。粘り強く、間口を広げるとか、地下を使うということを考えていく中で、皆さんにご納得いただける方向性が出てくるのではないかとと思っている。3点目、当然のことながら、周辺への波及効果は大きいと思っている。民間の方が中心になると思うが、この機会に便乗して、一緒にまちをにぎやかにして儲けようという考え方をしてもらいたい。広場の整備のタイミングをうまく使っていただくことも大事だと思った。

●福山市商店街振興組合連合会

随分、分かりやすい説明で納得している。事前に読ませていただく中で、前回のものがない整理されているという事と、これから検討していかないといけない事が非常に明確に見えてきたと思っている。今日、既に新聞に地下が接続された完成予想図みたいなものが出ていたので、この協議会の前に決まってしまったのかと少し思った。今日、西村さんのお話を聞いて、私も地下を接続して欲しいと思っている。ただ、前回のときにコストの話があったと思う。それから、地下歩道が無くなることによって、駅の東西をどのようにつなぐかという課題があったが、実現性が高いという気がしている。東西に抜ける場所は地下送迎場に入る斜路を利用するなど、説得力がある説明を聞いた気がしている。私は駅の間口を広げるという事は賛成。非常に福山の場合は距離としても狭いと感じていた。局長が挨拶されたように、せっかく北口スクエアができたということになると、特に福山城のところは駅に近い場所にあるので、ランドマーク的な意味があれば、駅の南北をもっと自由に通れるような状況にするためには、コンコースをかなり広げて、南北の融合性が一体感として図れるよ

うな仕掛けができたらどうだろうかと思っている。特に西側の西町から若松町の道路も、交通機能を含めて検討しながら、できれば歩行者道路にしてもらいたい。そこが一体化されれば、南北の融合性がかなり図れると思う。中央のコンコースの景観も含めた、幅の工夫ができると良いと思っている。現在、本通り商店街はストリートガーデンとして整備された。一番の悩みは伏見町からずっと東に抜けるところの高架下がほとんど機能していないこと。本通りの付近の高架下にはレストランやコンビニがあるが、駅からその間が全くつながっていない。歩道の整備も含めて、高架下も魅力のあるものでつなげていくと、かなり本通り商店街への回遊性が向上するのではないかと思った。だから、そういう意味で駅舎との結節を広げていくことは大事なことだと思う。前は全面的に広場が良いと言ったが、渡邊先生が仰るように交通結節機能と広場機能が両立することは前提だと思う。1次交通と2次交通をつなぐうえでは近いほうが望ましいと思うが、提案されている右カーブをもっと伏見町側に寄せれば、広場を大きく取れるのではないかという気がしている。伏見町側に寄せれば、広場を利用される方にとってもいいし、来街者にパッと印象を植え付けるようなことができるのではないか。ウォークアブルなまちづくりをめざしているのであれば、天満屋と伏見町の間で東に向かう道路に歩道を整備して、人を歩かせる仕掛けをすることによって人が回遊するのではないか。現状はまだ交通優先道路だと思う。

●ひろぎんエリアデザイン株式会社

先ほどのお話はその通りだと思う。私自身が一番こだわっているのは交通施設の配置。バスレーンを伏見町寄りにすることによって、広場の配置を大事に扱っていくというような考え方は重要だ。配置を考える時に、バスの大きさや手段といった将来の交通の姿が変化していくことも踏まえるべきだ。未来永劫、何十年も今のような交通の姿が続くか分からないので、もう少し広場に焦点を置いて検討していくほうが良いと思っている。正に人を中心として考えていくことによって、おのずと主旨に沿った配置に導かれるのではないか。前回は申し上げたが、人を中心にして考えていただきたい。また、広場をどのように使うかについても議論すべきだろう。ある程度広場をどのように活用するかを議論する中で、広場や交通の配置が見えてくると思うので、広場の活用についても議論してもらいたい。

●三之丸町町内会

地上については、駅舎を東西に使って、交通処理をすることは非常に良いと思っている。駅前はお城の繋がりの中で、その上に駅前空間がある。歴史的な埋蔵文化財の石垣などが埋まっている。三之丸町町内会は三之丸という名前がついているように、お城との関わりが深い場所。舟入の場所に二重櫓が建っている絵がある。是非、本物の二重櫓を建ててもらいたい。福山城とつながる駅前広場に二重櫓があることが重要だと思う。福山城にも関わっている三浦先生に関わってもらって造って頂きたい。これは14年前からの要望。14年前も二重櫓を立てた絵で、文化財を活用した駅前広場を作ってくれという要望をして、署名で12万人

の賛同を得た経緯がある。そういう市民の意思を引き継いでいくためにも是非造って頂きたいと思っている。

●株式会社築切家守舎

模型を見て、非常に具体的なイメージができた。バスセンターを民地でもし設けるのであれば伏見町という話があった。私が思うのは、バスセンターが公共空間に近いということであれば、公共の福祉の増進のためであれば大義がたつし、地権者にとってもインセンティブが出てくるということ。土地収用法はあまり日本の行政はしないが、そのくらいの意気込みで臨んでいただければ、地権者も話しやすいと思う。これはみんなのためにやるものだと。是非、バスセンターの実現というものを、駐車場空間も含めて、前向きに進めるためには、行政が勝手に絵を描いた方がいいと思う。我々はそれを地権者と共に膝を突き合わせて、きちっと議論しながら、結論を求めるような体制になればと思っている。地下の利用は福山駅の構造上、この工法しかないと思う。地下から抜けるのはベターな考え方だと思う。先ほどからバス通りを伏見町に寄せた方がいいという意見が出ていたが、そうすると伏見町というエリアが駅から分断される可能性がある。歩行空間としての行き来がしにくくなると思う。そこは何か糸口が必要。まちに何かインセンティブを与えるのか、それを利用する歩道空間を与えるのか、何か考えた方が良く。私も地権者の一人として思うのは、駐車場の配置適正化区域を考えるという記載があったが、ウォークブルエリアに行く際にどこの駐車場に停めるのかを明確に打ち出すべきだと思う。それをするによって、地権者の合意形成がすぐに図れるかは別にしても、具体的なビジョンは描くことができる。それが無いから、民間の駐車場が乱立するような現状になっていると思う。逆に言うと、乱立する駐車場を抑えて、駐車場にした方が良くという場所を法的に後押しすることを検討してほしい。

●福山市身体障害者団体連合会

地下の駐車場と送迎場をつなぐという意見は大賛成。ただ、駅前広場の機能を考える時に、面積が一定しかないのです、そうすると、地下だけにこだわるのではなくて、例えば、伏見町の角から一区間、建物を建てて、その中にバスだとか、自家用車とか、発着できる場所にした方がいいのではないかと。それだけではなくて、建物の中にお店を作っていく。そして、久松通りや本通りと連絡するような道をつくれば、その部分だけでなく、周辺に影響が出てくるのではないかと。問題になるのは車の動線をどうするか。イメージとすれば、大阪のOCAT等が似たようなイメージになると思う。そうすると福山駅の南側の広場は十分な広さが確保できるのではないかと。駅前からすぐにバスセンターがあれば、バスがそこにあるという安心感がある。そういうことも大事だと思う。参考にさせていただきたい。

●広島県土木建築局

広島県地域政策局と調整した意見を代表して発言させていただく。備後圏域の玄関口の

顔としてふさわしいものということでご説明をいただいているところだが、県の発展をけん引するような機能的で魅力あふれる空間が望まれていると思う。旧キャスパの跡地の再開発やリムの再生、伏見町エリアのリノベーションまちづくりなど都市再生が進みつつあり、それと現在検討している機能更新した駅前広場が有機的につながっていくことによって、回遊性や魅力の向上が相乗的・持続的に効果が出てくると思う。先ほどの模型は分かりやすく、地下接続の状況やそれがもたらす効果がイメージできたことで議論がしやすい状況になった。駅前広場と駅周辺が車道で分断されていることは一つの課題だと思っていた。地下送迎場との接続であるとか、新たな出口は解決策として検討すべきと考える。さらに前回の協議会でも少し触れさせていただいたが、伏見町の北側に通り抜けたバスなどの転回や待機場までのルート、歩行者の動線は今回のプランで気になるところだと思っている。交通処理や歩行者動線の安全性の観点から、類似の交通動線をもつ姫路駅の北側では、バスターミナルなども設置されており、検討すべき選択肢なのではないかと思う。ウォークブルエリアから利用しやすい場所に駐車場を誘導していくという話が出ていたが、今後、拠点性が増していくと新たに都市機能が集積してくることが考えられる。フリンジ駐車場の活用促進に加え、附置義務駐車場によるまちなか駐車場の増加、そういったところも併せて検討する必要があると思う。いずれにしても、交通動線や配置計画を変更する、チャレンジングな取組になるので、関係者と合意形成を含めて十分な検討をお願いしたい。広場の使い方や運営についても、駅前の将来像を様々な人と共有しながら、検討していくことが大事だと思う。市民の意見の中には、「親しみ」、「楽しめる」、「訪れる価値」、「期待感」というキーワードがあったと思う。様々な人々が集まり、滞在し、そこで新たな交流や価値が生まれ、周辺との連携を含めて、波及効果が生まれるような駅前広場になっていくことを期待している。

●福山青年会議所

先日、熊本駅に出張に行った。熊本のバスターミナルを見たときにこれが完成形かなと思った。理由は、バスターミナルや公共空間があり、リノベもしてあって、緑もあって、一体化したまちづくりが行われていたから。福山のみんなで一回見に行って、イメージを同じにすることが大事だと思った。バスターミナルが正解なわけではないが、実際に見ていただきたいと思った。私は車の運転が苦手なため、市の駐車場は停めにくいと思った。運転が苦手な人にも配慮したまちづくりをしていただきたい。よろしくをお願いします。

●佐々木伸子准教授

模型が出て一気に理解が進んだと思う。分科会の時に、斜めの道路のアイデアが出て来たときに目の前が開けたような気がしたが、それが非常に分かりやすくなった。今の段階でやることはフレームをつくること。まちのインフラ道路の話の先には、民間の動きが派生的に広がっていくと感じた。展開して、面でつながっていく。本通りまでつながったり、伏見町も色々な活動を考えられる。フレームを用意することが協議会の役割だと感じた。そこか

ら先は、色々な人が色々な立場で考えていって、どんどん広がっていくような、ネタができてきたと思う。細かいことは色々各論になっていって、ここから詰めていく。今、何を大事にしなければならないのかというと、未来に残す福山の誇りとか、子ども達が自慢できて、福山を出ても帰ってくるようなまちにすること。バスターミナルは本当に良いと思う。周辺からまちに入って来れるようなまちになれば、車がなくても住めるまちになる。公共交通を入れながら、うるおい機能を持つ。そのフレームが提供できれば、その先は市民の力でやっていけるかなと感じた。ここからという感じだと思う。

●福山市自治会連合会

我々は検討している内容を使わせていただく立場。毎日が楽しく過ごせるか、そういう観点で参加している。前は駅前から広がっていく過程の中で、例えば、サイクリングエリアの整備などがあると発言した。今日の話では、駅の西側や東側、南北、こういう形で、駅へのアクセスポイントが広がることは素晴らしいことだと思う。先ほど模型を見たときに、ぱかっと表通りを外すと、地下の仕組みが見えた。そうすれば、地上の交通量が下がり、地上は広場として使える。正にその通りだと思うし、素晴らしいことだと思う。比較的に見落としがちになるのは、交通弱者やお年寄り、その見えないところに、きめ細かいフォローをお願いしたいと思う。

●広島県東部観光推進協議会

我々ツーリズム業界に従事しているので、その観点で発言する。駅からの出口、入口が増えることは、動線が広がるので我々としては業務がしやすくなる。観光バスの乗降場をさんすての東側という話もあったと思うが、現状よりも良くなる。現在は信号があるので、学生の列が途切れたりするので大変。さんすての東側であれば、非常に動線がすっきりすると思った。今後の話になるが、広場のにぎわいを創出していくこととなると、福山市外の外部の人をどう呼び込んでいくのかということになると思う。福山ならではの資源をいかに広場のコンセプトに含めて、生かしていくのかということが一つのポイントだと思っている。その一つとして、遺構の保存活用という話もあったが、それ以外にも産業や資源なども生かしながら、外部の人たちにとっても魅力的に感じる場所になれば良いと思った。福山市民にとっても、単なる人が行き交う場所に留まらずに、いかに市民の居場所にするかがポイントになると思う。いかに市民の方々に滞留してもらうのか、滞留すればコミュニケーションが生まれ、愛着も生まれると思う。滞留する仕掛けやアイデア、民間事業者の意見を聞きながら進めてもらいたい。

●広島県バス協会

広場を広く確保することは賛成だが、バスの乗降場や待機場の配置がさんすてから郵便局前まで広がると、本当にスムーズに運用ができるのかと非常に心配している、Uターン

して、信号が2～3か所ある。朝のラッシュ時などに、バスが遅れて駅に着いてしまった時に、前のバスが残っていたら、後に着いたバスはまた一周して戻ってくる。そうになると、さらに時間がかかってしまう。そういうこともよく考えていかないと、今の計画ありきで進めてもらうと困る。ターミナルの話もしてもらっているが、今より便利にならないといけなと思う。引き続き、検討をお願いしたい。

●広島県タクシー協会東部支部

模型を見ると想像が膨らんでくる。二次交通を先に考えていくから、駅前のまちづくりが難しいという思いがある。乗り場が駅前にあるべきだという発想ではなく、ウォークラブルなまちづくりから形を考えていって、その後に二次交通をどうやってはめていくかという考え方が必要だと思っている。ストレスフリーなまちづくりをするためには、滞在しやすいことをどうつくるか。昔は集合する際には釣り人の像の前に集合していたが、今は携帯電話が普及しているので現地集合している。駅前に集まって、駅前で楽しむことをどうつくるのかということを考えると、二次交通を先に考えるとおかしくなると思う。もちろん、バスターミナルやタクシーもショットガンで最低限配置するという考え方を作りあげていく中で、もっと広く面で見えていく。城側の方も含めて、全体で考えていかないといけない。人流がどのように動いているのかというデータも必要だろう。福山駅で降りる方は出張族が多いが、これから日本では、観光をどうするかを考えないといけない。福山で滞在型のまちをつくるのであれば、もっと広く考えて、人がどう動くかというデータを蓄積して作り上げていくことが大事だと思う。上に建物を上げていくと、逆に商店街がシャッター化していくので、駅前周辺には面で広がったデパートのような雰囲気のマチをつくってはどうか。アメリカでは2キロ位のウォークラブルな道を作って、その下に店があるような場所がある。福山でも駅前大通りがまっすぐなので、駅舎とはつなげなくても、上空にウォークラブルなまちも考えられるのではないかと。地方に行って色々研究してみることも大事だと思う。地方に行くと、福山に降りてお城があるというだけでなく、駅前に降りて楽しむという雰囲気を作ることも大事だと思うことがある。駅前広場が出来たのは10年前くらいだと聞いているが、何度も投資をするのではなく、長期間、駅前で滞在できる仕組みをつくっていく方が、無駄な投資にならないと思う。

●西日本旅客鉄道株式会社

交通結節機能と環境空間を整合していくことが大事だと思う。そうした中で、JRの状況をご紹介させていただく。観光という面であれば、福山駅に観光列車の銀河を停めているので、お客様が新幹線や高速バスで福山に訪れてもらうことにつながれば良いと思っている。また、「ラ・マル・ド・ボア」という自転車を載せることができる観光列車を尾道・三原まで走らせている。当然、福山駅にも停まるということで、こうした事からも観光面で福山をPRできていると思っている。いつも言っているが、福山駅は毎日4万人のお客様が利用し

ている。その中には近距離、中距離、長距離などの利用がある。バス協会も大変な状況だと思うが、JRも2021年度の1日当たりの乗降人員が1万人減っている状況。コロナが回復してくればということもあるが、出張などの働き方も変わってきている。それを含めた中で、幅広い観点から考えてもらいたい。

●福山市バス交通利用促進協議会

大変分かりやすい説明頂いた中で、バス利用は交通弱者のためにどう考えていくべきかと考えている。姫路駅が似ているということで、ぜひ姫路駅の事を勉強してみたいと思った。似て非なるものをつくって、より良い駅前を作りたいと思う。駅前については、バスを使いたい方、駅前を利用したい方を考えていかないといけない。公園ありきで考えるのではなく、そこで何をするのか、そこに何をつくるのかを考えなければならない。空間ありきになってしまうと、できることが限られてしまうので、そういうことも検討したい。ぜひ若い方の意見も取り入れてみたいと思う。なぜかと言うと、若い方が情報発信を良くしている。情報発信によりまちがにぎやかになったりする。そういうものも活用しないといけない。ダメだったらまたつくるのではなく、これが最終形態というつもりで取り組まなければならない。公共交通がどのような形態になっていくのか分からない。この先縮小するのか、大きくなるのか分からないが、現状の中でしっかり考えて、皆さんと駅前広場をつくっていきたい。

●都市再生機構

魅力的な素案と模型の提示があったと思う。第1回の協議会で国交省から「駅まちデザインの手引き」のご紹介があった。全国で「駅まちデザイン」の考え方を参考にしながら取り組むべきとされている。駅前広場だけでなく、隣接する地区や周辺市街地と必要な機能の配置を検討すべきだと言われている。駅まち空間で必要とされている機能は、交通結節機能や都市の拠点を形成する市街地拠点機能、交流機能、防災機能などが挙げられている。平常時は滞留空間として利用され、発災時にも使えることが大事だと言われている。その他に、都市の顔であるとか、サービス機能など、そういった視点で、駅だけでなく、駅を含むまちの機能を考える事が大事だと言われている。また、留意すべき五原則が挙げられている。1つ目は多様な主体が連携すること、まさにこの会議だと捉えている。2つ目はビジョンの共有。まさにいま議論されていること。将来ビジョンの共有と駅まち空間を形成するうえでの基本的な考え方を共有することが大事だと言われている。3つ目は空間を共有すること、4つ目は機能が連携すること、5つ目は一体で柔軟な運営することが大事だと言われている。今後、素案の現実に向けて、取組の方向性がこれで良いかとか、課題がないかとか、色々な検証をしていかないといけないが、そのためにも社会実験が重要になると言われている。市民の関心を高める効果もあると言われている。持続可能な運営ができる仕組みづくりも大事になると言われている。次の基本計画を検討する際には、こうした視点も大事だろう。姫路が先行事例として有名だが、後発事例として良い事例が福山で実現できると良いと思う。

官と民の役割分担を決めて、具体的な計画の検討を進めてもらいたいと思う。

●伏見町町内会

私は昭和28年から、45年間大阪にいた。難波や北南、港町のバスセンターなどを見て来た。福山もあんな風にならないといけないと思うが、伏見町の再開発は終わってしまった。今度こそお願いしたいと思う。

●福山商工会議所

駅前にはぎわい創出や重要な場所だという認識をしている。ただ、郊外の企業にとって、福山駅は出張に行ったり、お客様を迎えに行く場所。そういう観点から、一般車両の利便性が著しく低下するような計画ではいけない。今日の説明ではそういう観点を十分含めた計画になっていると思う。路線バスについては定時制が必要であり、出発地点でバス乗降場を考えれば良いという考え方だと思うが、MICEを推進する観点から、観光客を呼び込むにあたって適切な配置を検討していただきたい。平日はビジネスシーンが多いたろうが、土日祝日のあり方も考える必要があると思う。

●西村浩

結論から言うとバスセンターを作った方がいいと思っている。民間の地主の方々が合意されて、行政も一緒にやろうという状況になったら良いと思っている。先ほどから姫路の話が出ているが、姫路程度ではいけない。日本の近未来となる最先端の駅前広場を作ること。そのためには正面に一切車両がない状態を作れたら良いし、その方が長持ちする駅前広場になると思う。何より、公共投資は子や孫、ひ孫の世代のためにやる事。今後、人口のフェーズが変わったり、少子化が進む中で、少しレンジが長いことをめざさなければならない。ただし、利用者の方は割とお気楽でいいが、実際に関わる当事者はとても不安だということ認識しないとイケない。交通事業者や行政だって、色々悩んでいる。でも、皆さんが理想形をめざそうとなったときに、そこに向かって、どれだけ努力できるかが勝負。バスの路線を変えるだけで時間がかかるだとか、遅刻したとか色々言われると思う。タクシーも同じ。まちの未来を考えて、こういう風にしようと思った時に、いかにユーザーの方々を含めた市民が応援できるか。ちょっとくらいバスが遅れたって、こんな広場ができたから良いじゃないか、ちょっと早くであればいいだけでしょとか。そういった機運をどう作るかが日本のトップランナーになれるかどうかの違いだろうと思う。仮に伏見町にタクシーを併設したバスセンターを作るとする。バスが駅前大通りから駅に向かってきて、駅前広場を東に曲がって、そこで一旦、急いでいるようなお客さんを降ろす。その後、終点のバスセンターに向かう。バスセンターには待機場もあって、駐車場や商業もある。もしかしたら、バス会社が商業をやっている、バスセンターと商業を併設することでバス会社が収益を上げるようなことも考えられる。そして、さんすての東側から人が訪れるようになり、さんすての収益も上がる。

さんすての東側には観光バスが並ぶシェルターがあって、もしかしたら高架下の活用もあって、本通りまでつながることで、本通りまで人がめぐるサイクルができる。このように、駅前交通結節の再編を考えた結果、商業振興につながるようなことができれば、応援できるような関係性が築けるのではないかと。そうすれば、タクシーの料金がワンメーターあがってもいいじゃん、というような関係性になって、日本一になれると思う。今日言いたいことは、関わっている事業者は不安だということ。皆さん、その事を考えながら、今後一つずつ決断しないといけないことを念頭に置きながら、一緒に検討していきましょう。

●広島県福山東警察署

福山の駅前が開けてくるとことは良い話だと思う。交通管理者としては、今の駅前広場の南側の交差点は形が大きく、制御が難しい場所、対策をとっているが問題がないわけではない。シンプルになると良いと思う。実際に形ができるのはこれからだが、その際には交通管理者としての意見を言う必要がある。一方通行にしてはどうかとか色々な意見が出ていたが、後戻りにくくなる前に必要な意見を言わせていただくと。引き続きよろしく願いしたい。

●西村浩

色々事業者が不安だということを行ったが、今後、確かめながらやる必要がある。みんなで応援するという社会実験をやった方がいいと思う。行政を含めてたくさん事業者がいるので不安を解消する実験をした方がいい。ショットガンとか、高架下を使うとか、できるだけめざすべき将来像に近い形で実験をしてみることが出来たら良い。市民の方々には共感してもらい、応援してもらい。これっていいよねと。だから、実験のときには最高の風景をつくるのが大事。参考に動画を見てもらいたい。実験の際には動画を撮っておいた方がいいと思う。(長野県佐久市の実験の動画を見ながら) みんなで人工芝を張った。誰もいない廃墟みたいな場所。子ども達も関わって、本を置いてみたりしている。イベントをやっているわけではないが、色々な人たちが過ごすようになった。高校生のカップルとか、音楽をしたい人とか。めざしているのは、両サイドの空き店舗にお店を出したいという人が出てくること。ここでイベントが行われることではなくて、沿道の不動産価値の向上を目標としている。パンを売ったりする人が次は沿道に出店してパン屋を開いたり。芝生をはって、スターテントを置くだけで人がくる。この実験は去年の10月からやっている。本当は1か月間だった。協議会をデザインミーティングと呼んでいる。住民の6人が中心になって、芝生をひいたりしている。結果的に1か月だけだったのに、まだやっている。これをやった結果、行政として再整備しようということになり、テナントに人が入っている。こういう良い循環を作って、駅前広場が素敵な空間になるということを実感してもらって、近くにお店を出したい人を誘発させるかということをめざして、協議会で実験できると良いと思う。

●清水座長

皆さん、貴重なご意見ありがとうございました。いつもと同じように、皆さんの意見を反映しながら、一歩ずつ前に進めていけると良いだろう。引き続き、よろしく願いたい。最後に少しでも感想を述べさせていただく。今日は模型が出てきたことで、今まで、もやもやしていたものがクリアになった気がする。やはり模型は大事。今後は、模型が小さいので、ストリートビューのように、みんなが共有できる賢いやり方を持ち込んでももらいたいと思う。先ほど来より、話があったように、協議会が主体となって、社会実験というステージに今年度突入していければ、進み方が違うと思う。福山市はIT化が進んで、市民のアンケートの回答が瞬時に得られるまちなになっている。5,000を超える回答が瞬時に得られることはすごいこと。そこに寄せられた意見が次第次第に、徐々に動きつつあるということが今日の報告に出ていた。市民の方々の同意を得ながら進めていくことが結局大事なこと。大事なことは利用者目線で考えていくこと。今後、皆さんに求められていることは、将来の利用者像を想像しながら取り組む事。交通事業者の方々にとっては難しい話も抱えていると思う。乗り物のパーソナル化が極端なスピードで進みつつある。高齢者や免許返納者が増える中で公共交通はどういう形が良いのかを考えるのも大きなテーマの一つだ。そのあたりも含めて、人間が降りて、どこに向かって、どのように過ごしているか、そのような先読みをしながら協議会全体で取り組んでいかないといけない。社会実験で市民の共感をどのように得られるか。あるいは、ものによってはこのやり方はダメではないかということを実験で検証しなければならない。次のステップに向かって、また一歩前進していきたいと思う。今後、皆さんの力の総和が勝負所だと思う。ありがとうございました。

●事務局

清水座長、ありがとうございました。それではこれより閉会に入りたいと思います。閉会に当たりまして、建設局参事の池田からご挨拶いたします。

《閉会挨拶》

●建設局参事

本日も活発なご議論ありがとうございました。交通結節機能や広場機能が大事で融合していくということは皆さん一致した考えになったと思っている。去年10月に第1回の協議会をしたときに、従来の計画の進め方ではなく、使う人の意見をなるべく計画に反映して、みんなで作り上げていくと申し上げた。まさにそういった事が進んでいると思っている。交通弱者の意見も反映しないといけないというご意見もあったので、そこも十分反映していきたい。実験については、協議会に主体として関わってもらいたいと考えている。具体は委員の皆さんにも意見を頂戴して進めていきたいと考えている。引き続き、よろしく願います。本日はありがとうございました。

●事務局

ありがとうございました。これもちまして、第3回福山駅前広場協議会を終了いたします。次回の開催については、来年2月頃を予定しております。日程につきましては、後日、調整させていただき、ご案内をいたします。本日はありがとうございました。

以上